



生徒の主体的・自主的な活動を育むために

今週、14日（水）に「生徒総会」が開かれました。後期生徒会役員も決定して、3年生から1・2年生にバトンタッチの生徒総会となりました。ここまでに役員改選のための準備、事務局員や各委員長の任命、クラスの各委員選出などを行い、総会のための議案書づくりや読み合わせ、質問の準備などをしてきました。

総会は、予定された時間をオーバーするほど、生徒から実生活に即した切実かつユニークな意見や質問、要望が出されました。これまでの十和田中学校生徒会活動の伝統や今年度前期の生徒自らが考え実行してきた主体的な活動が生かされていると感じました。



3年生ありがとう！

先生に指示されてからでなく、自分たちで考え、みんなのために、次のためという行動が大切です。今年生徒会や各委員会では、これまでにない活動をたくさんしています。

- ・「G2賞」－あいさつ運動で、〇〇賞（積極性など）を制定し、生徒が生徒を表彰
- ・「昼休みは、遊ぼう！キャンペーン」－9月中の昼休み、元気に遊ぼう運動
- ・「十和田検定」の実施－十和田中や地域の歴史や伝統に関する検定試験
- ・「ハイタッチ、あいさつ運動」－あいさつ運動をハイタッチ運動にグレードアップ

など、どれも生徒の発案で計画し、実施されています。生徒自らの主体的で自主的な活動を大切にしたいと思います。大人の考えで、すぐ結論を出したり、口や手を出したりせず、「待つこと」「やってみること」が大切だと思っています。

鹿角市社会福祉協議会 ボランティア団体表彰決まる！！



これまでの生徒会でのボランティア活動が認められ、20日（火）に行われる「第37回鹿角市社会福祉大会」で団体表彰を受けることが決まりました。生徒会やボランティア委員会が中心となり、募金活動やプルタブの回収、地域の雪かきや清掃活動などを行ってきました。現生徒会だけでなく、卒業した先輩による活動も含めての表彰と受け止めていますが、今後も、生徒ができるボランティア活動を後押しし、実行してほしいと思います。20日の表彰式には、生徒会を代表して前期生徒会長の松浦京介さん（3年2組）と同じくボランティア委員長の石川雅音さん（3年1組）が出席予定です。

十中祭食堂・バザーの売上金 ～ 42,738円 となりました～

今年度もPTAで食堂、バザーを運営していただきありがとうございました。事前の会議や準備、当日の仕分けや販売など多くの協力をいただきました。また、多くの方にバザー用品の提供していただきました。今年度の売上は、食堂19,733円、バザー23,005円、合計42,738円でした。今後のTAP活動や環境整備費等で使わせていただく予定です。重ねてお礼申し上げます。

11月1日(木)の「秋田さきがけ」誌の社会面の記事です。職員室でも話題となり、生徒指導部から職員全員に配られ読みました。いじめの問題、スマートフォンや携帯電話、SNS等の利用を含めてのメディア利用のあり方など、本校でも避けて通ることのできない重要な問題です。持つことを奨励するわけではありませんが、連絡や安全面から持つことが必要な家庭もあります。「持たせない」から、「よりよい使い方を身に付ける」時代ととらえています。

先月、インターネット利用実態調査がありました。本校の速報値です。

Q1 スマホか携帯電話を持っている	
1年	40.0%
2年	35.3%
3年	76.1%
全校	50.5%

学校全体で50%を超えました。

Q2 Q1に通信機能付き端末を加えると	
1年	91.7%
2年	89.4%
3年	94.3%
全校	91.8%

ほぼ全員という実態があります。

Q3 LINE等コミュニケーションアプリの利用率	
1年	59.4%
2年	60.7%
3年	98.1%
全校	72.7%

なくてはならないアプリとなりつつあります。

先日、スマートフォンを使った高校の授業を見る機会がありました。高校生は授業の中で上手に、しかも

竹内 和雄 (兵庫県立大准教授)

41万件という数字は重

い。文部科学省が発表した2017年度の小中高校のいじめ認知件数だ。2年連続で大幅に増え、過去最多を更新した。文科省は「軽いいじめでも積極的な認知を促した結果」と言う。早く発見して対応する方針は正しい。だが、不登校や暴力行為、重大事態の件数も増えており、樂觀できない。子どもに今、何が起きているのか。

私は20年間、中学校で生徒指導をしてきた。その後子ども自身がいじめやネットの問題に取り組み「子どもサミット」に年間30回以上関わる。アンケートを含めると、毎年3万人以上の子どもの声を聞いてい

いじめ過去最多

識者評論

スマホ普及、試される大人

スマートフォンで、人間関係が変化し、子どもたちの「いじめっ子像」は様変わりした。分かりやすくアニメ「ドラえもん」に例えよう。

子どもに聞くと、いじめっ子が暴力的な「ジャイアン」に例えよう。

「だ」という答えは激減。代わって優等生の「しずかちゃん」が急増している。無料通信アプリLINE(ライン)を駆使し、いじめの頂点に立つというの

文科省が示すいじめ対策に加害者の出席停止があ



たけうち・かずお 1965年、大阪府生まれ。大阪府の公立中教諭を経て、12年から現職。文科省や総務省で、いじめやネットの問題についての委員を務める。

る。ジャイアンなら、出席停止にすればいじめは収まる。だが、しずかちゃんはずっぽをつかませない。ジャイアンに命じていじめさ

止らなければいじめは収まる。だが、しずかちゃんはずっぽをつかませない。ジャイアンに命じていじめさ

11年度まで減り続けた後、増加に転じた。転換点のこの時期にスマホが子どもに普及し始めた。

子どもは「強すぎてあり得ない」と笑う。子どもたちの結論は「ダメだ。中学生は「スマホ用語

ぐらい知らないと言にならない」と言う。しかし、教師たちは、中学生が挙げる用語をほとんど知らなかった。生徒は真顔で「そんなので、いじめの指導なんかできますか」と驚いた。

文科省は、いじめなどの問題に一人では対応せず、学校全体で関わる「チーム学校」という方針を進めている。考え方はいいが、重要なのはどんな構成メンバーかだ。

30~40代の中堅を中心に力を合わせるのが理想だが、今の学校はこの層が薄く、経験の少ない若手に頼らざるを得ない。指導力に乏しい教師に危うさを感じる子どもは多い。「いじめがあっても、先生は暴走するから相談しない」という声をよく聞く。

効果的に使っていました。大人も勉強し、いっしょに考えていく時代だと痛感しました。